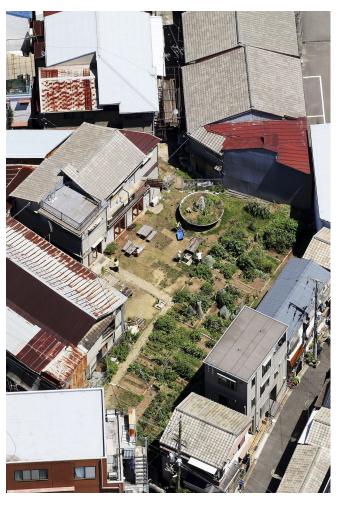
# みんなのうえん~一般社団法人グッドラックの取り組み~

都市の空き地を活用する「みんなのうえん」の取り組みについて、一般社団法人グッドラック代表理事の金田康孝さんに伺いました。

# 金田さんの学生時代について教えてください

私は西川亮さん(現NPO法人 Co. to. hana 代 表理事) と同じ神戸芸術工科大学で建築の勉強 をしていました。専攻は建築環境デザインでま ちづくりが専門の先生のゼミに所属していた ので、神戸のハーバーランドの南にある東出町 という古い港町を題材に研究していました。そ こで思ったことは、建築家は建物を設計しても それがどう使われるかまでは責任を持てない し、そもそも関わる余地もないことが一般的で す。私はどちらかというと、その建築を使いこ なすことで、まちの人の流れが変わり、そこに いる人がいかに豊かに暮らせるのかといった ことに関心があったのかなと思います。ただ、 私は建築の出身なのでハードを伴うまちづく りがしたかったというところはありました。ワ ークショップをしたり、人を集めて話し合うと いったソフトの取り組みだけでは、どうしても 課題を根本的に解決することに繋げにくいと 感じています。建物や空間があって、さらにど う人の活気を生んでいくのかというワークシ ョップなどのプロセスを重ねることで、より効 果を発揮するものだと思うのです。



みんなのうえん北加賀屋 第2農園空撮

### NPO法人 Co. to. hana は西川さんや大学時代の友人たちと立ち上げられたのですね

私が卒業するタイミングで大学時代から一緒に活動することがあったメンバー数人でNPOを やろうという感じになりまして、2010年に一緒に立ち上げました。綿密に計画して立ち上げた訳で はなく、どちらかというと大学で学んだ建築やまちづくりの考え方を社会で活かせたら良いなと思 っていたのと、在学中から西川さんとやっていた「シンサイミライノハナ」という活動をより広めながら、デザインというものを通して地域や社会課題を幅広く解決していこうという理念で立ち上げた感じですね。それで立ち上げ当初は知り合いの方からお仕事を頂いたりしました。NPO 法人を立ち上げて半年から一年後ぐらいにご縁がありまして北加賀屋に事務所を置きました。

### 当時の北加賀屋の様子を見られて、コミュニティの拠点ができたら良いと思われたのですか

そうですね。そもそも事務所を探す 時にも私たちが入っていって何か役 割がある場所がいいと思っていまし た。色々探した中で北加賀屋でアート のまちづくりというのが始まってか ら2年ぐらいで、アーティストは入っ てきているけれどもまだ発展途上で した。アーティストはそれぞれ個別で 活動していて、それをつなぐような役 割の人が少ないというのがわかりま した。千島土地の芝川さんに誘ってい ただいたというのもあるのですが、ア



みんなのうえん北加賀屋 第2農園での交流会

て私たちに何かできるのではないかという想いで北加賀屋に来て、それからここで何ができるかということを考え始めました。

### 北加賀屋で最初はどんな活動をされていましたか

アーティストというのは自分の作品を作ることが一番の目的です。なので、必ずしもまちづくりに関わりたいと思っているわけではありません。アーティストの力をまちづくりに活かすには、その人の魅力や価値を客観的に観察して、地域と繋ぐ役割の人が必要だと思います。そこで私たちは、子供向けに何かやりましょうと声を掛けたり、アーティスト同士をつなぐ場を作ったりしました。千島土地からも地域のアーティストのコミュニティを作ることや、マップづくりやイベントを通した情報発信も依頼されることもありました。ですからアーティストとできるだけ日常的に会って仲良くなるということから始めました。最近はコロナでできていないですが、だいたい毎年一回はクリエーターが集まる交流会を開催していて、みんなでバーベキューをしたり、それぞれの活動を紹介したりする場をつくっていました。

### 「みんなのうえん」のきっかけはどのように見つけられましたか

北加賀屋で何か仕事がないかと探しているなかで、空き地や空き家が目立つなと思いました。また北加賀屋に入ってきている若い世代と、おじいちゃん・おばあちゃんの世代が交流する場や機会がなかったので、それで空き地でみんなの庭みたいな場ができると、まちづくりにつながるのではないかという発想で始まったのです。

特に北加賀屋の背景を考えると、工業の街で四国や九州から出稼ぎに来てそのまま住んでいる人が多くて、実家は田舎という人が多いのです。それで軒先に植木鉢をやたらと置いている人が多いので、空き地で農園みたいなことができれば、アートだとつながらなかった人もつながれるし良いのではないかということで企画しました。しかし、助成金を申請したりして色々と機会を探りましたがなかなか取っ掛かりがなかったのです。

一方で、千島土地も空き地の活用に困っていました。空き家は「原状回復不要です」と言って若い人に貸していたので結構埋まってきていたのですが、空き地はなかなか難しい。駐車場にしがちですが、もう少し長期的にまちの価値を上げる活動や取り組みに使いたいという思いがありました。千島土地と私たちをつないでくれたのがコミュニティデザイナーで studio-L 代表の山崎亮さんなのです。千島土地が山崎さんに農園をやりたいと相談されて、山崎さんがそれだったら「地域の顔となる主体が必要ですね」ということになって、「NPO 法人 Co. to. hana がいるではないですか」と言ってくださいました。私たちもそういうことをやりたいと思っていたのですと千島土地に提案をして、事業がスタートしました。当初3年間は千島土地からの業務委託というかたちで事業運営していました。千島土地から私たち Co. to. hana への発注と山崎さんの studio-L への発注の両方をされていて、私たちは studio-L からコミュニティデザインのノウハウを学びつつプロジェクトを4年目には自立できるかたちに持っていくというミッションでやっていました。

### 農業をやるにあたって不安はなかったですか

農業についてはほとんど何もわからない状態だったので、不安を通り越して、何もわかりません!誰か勘けて!という感じでした。実家が農業ということもありませんし、とももとでは悪業の勉強をしたことものもというに農業なことに手ャレンに農業なことに手を当まないからこそ空き地で農業をシできたのだと思います。中途に知識を持っていたら、最初から「と思知識を持っていたら、最初から「と思知識を持っていたら、最初から「と思います。からというが始まってから色んな農家



みんなのうえん北加賀屋 第1農園

さんや専門家の人に教えてもらいました。運営者の立場でしたが、農園の参加者と一緒に学んでいく過程で少しずつ身についていったという感じです。

#### 空き地で農園をする意義について教えてください

空き地を駐車場にすれば土地経営としては回ると思いますが、まちの将来を考えて駐車場だらけ のまちに人は住みたいでしょうか。長期的な視野に立って、まちの価値を上げることを考えると農 園はぴったりだと思いました。コミュニティをつくって地域活性化の仕掛けをするというまちづくりのソフト面の効果のほか、自然の環境ができること自体も価値ですし、防災的にも空間があったほうが火災を止めたり雨水を溜めたりするというまちづくりのハード面の効果もあるので農園がいいと思いました。

### 「みんなのうえん」というネーミングは非常に伝わりやすいと思います

最初は、「北加賀屋クリエイティブファーム」という堅苦しい名前だったんですよ。それだと、地域の人からは愛されないということで、農園のメンバーとおこなったワークショップで出てきたいろんな意見の中で生まれたのが「みんなのうえん」という名前です。

### みんなのうえんの事業スキームについて教えてください

貸農園については1区画6㎡に区切っていて、北加賀屋であれば月額5,500円(税込み:基本コース)で貸しています。基本コースの他サポートコースというのがあって、こちらは頼まれればお手伝いをするということで、例えば今週は水やりに行けそうにないので水やりしてほしいとか、一緒に剪定の仕方を教えてほしいといった依頼を受けて私たちが動くというサポートがついています。現地でお会いした時やSNSを通した野菜づくりアドバイスはコースに関係なく皆さんに提供しています。ですが、「みんなのうえん」が提供している価値は野菜を作ることももちろんありますが、それがメインではないのです。借りている人がそこでどんな豊かな時間を過ごせるか、会社や地域では得られない人のコミュニティを育めるかが大事なのです。北加賀屋には第1農園と第2農園があり区画は全部で40あります。1区画を複数人で借りている場合が多いので、利用者は100人ぐらいいます。

主な収入源は貸農園の貸賃料と会員費です。ただそれだけだと区画が埋まってしまえばそれ以上伸びなくなるので、隣接した空き家をリノベーションして調理もできるレンタルスペースにしています。畑が見える空間という価値もあるので、この場所でイベントをしたり、料理教室を開いたり

という使い方をしています。農園で仕込んだものを使ってケータリングで企業が集まる場とか結婚式とかにフードを持っていったりすることもできます。農園の事業の収入についてはベースに賃貸料を置きながら、付加価値の部分で収益を生んでいくというモデルです。そこはいろいろバリエーションがあると思うので今後も増やしていこうと思います。なお、料理教室やイベントは畑を借りていない人でも参加できます。このように畑を借りている人できます。このように畑を借りている人の外も関われる場づくりもやっているので。そういう人を入れると多くの人がこの「みんなのうえん」に関わっています。



古民家スペースでの料理教室

#### 最初は専門の方が土壌改良をしたのですか

第1農園を始めた時は、土木工事業者に入れてもらった土が砂場のような状態で畑にはあまり適していませんでした。土の専門家に見てもらうと「これでは無理だ」というので、そこから土壌改良していくことになりました。第1農園の一年後に第2農園をつくったときはその反省を生かして最初から土の専門家に入ってもらって適した土を入れました。



第2農園での土づくり

#### 自分の好きなものを植えて良いのですか

いくつか禁止している植物はあるのですが基本的にはなんでも大丈夫です。花でもハーブでも OK です。植えてもらったら困るという植物は人に害を及ぼすものですね。毒があるとか、臭いがあるとか、激しいトゲがあるものはやめていただいています。

#### どのような方が借りておられますか

畑を借りたいという方は、インスタグラムとか Facebook などのウェブ検索で「みんなのうえん」を見つける方が多いですね。年齢では、若い方が多くて 30~40 代で未就学児のお子さんがいらっしゃる方が多いです。もちろん高齢の方では 80 代の方もいらっしゃいますし、単身の方もいらっしゃいます。意外と女性の割合が高いですね。よくある貸農園の利用者というのはおじいちゃんが多いですけれども、ここは客層が全然違います。

#### 運営上どんなことを工夫されていますか

畑を借りる人たち同士で顔見知り以上の深い関係を築こうと思うと、こちらからの声掛けが重要です。例えばバーベキューの場をセッティングしたりとか、みんなで何か作るということをしたりしますね。石窯もみんなで作りました。今は一年ぐらいかけてビオトープを作ろうとしています。そういう取り組みを通して関係性を深めていくというのが「みんなのうえん」の特徴です。



しょうゆづくりワークショップ

ケータリングでは、農園メンバーの料理

が得意な主婦の方にお願いして一緒に仕事をしたりすることもあります。運営者と利用者という関係を超えて、ともに仕事をする仲間になることもあります。

あとは見た目のきれいさというのも大事ですね。例えば支柱などでは個人だと鉄杭を使う人もい

ますが、「みんなのうえん」では竹の支柱を用意しています。竹は耐久性が低いのでコストは高くなりますが、竹のほうがかわいいというか、見栄えが良いので使っています。

#### ご苦労されることや課題はありますか

2018年の台風21号はすごい台風でしたよね。あの時は大変でした。でも地域の方やメンバーが助けてくれて、みんなで片付けをして綺麗になりました。

補助金については、大阪府都市整備推進センターというところが密集市街地における緑地づくりの補助を行っており、寝屋川で「みんなのうえん」を作るときに活用しました。国の制度でいうとここでは使えていないのですが、市民緑地認定制度というのがあります。これに該当すると緑地に関しては固定資産税の減免があります。大阪市の総合計画の中に緑化重点地域を定めるのですが、そこに指定されているエリアでなければ使えない制度なのです。実はこの制度のできる2年前から国交省の調査事業に参加していて、こういった制度があることによるメリットなどを報告書にまとめてそれをもとに作った制度なので、是非このエリアも指定をお願いしたいと思っています。

# 参加している人にいちばん感じてもらいたいことはどんなことですか

野菜を作るということだけの価値だと、この料金は払えないと思います。ここに来る時間がいかに価値があるものかというのが大事だと思うので、もちろん場所的にくつろげるというのもそうですし、ここで会う人との関係性もありますし、もっというとここに参加しているんだというプライドみたいなものも関係していると思います。コミュニティができてくると、友達もできるので止めたらもったいないと思ってもらえるかもしれません。

#### 新しく寝屋川に「みんなのうえん」ができましたね

「みんなのうえん寝屋川」は住宅 跡地を耕してつくった約300㎡の農園と、築50年の木造住宅をリノベーションした小さなキッチンサロンがあります。ここの整備は老朽化した木造の家を取り壊すところからした。整備費は私たちが負担しまり、密集対策の補助金があるエリアだったので解体費用は3分の2ぐらい補助金で賄いました。空き地と建物をセットで活用するがみんなのうえんモデルなので、1棟の木造住宅をリノベしてみんなが休憩できるスペースにしました。



みんなのうえん寝屋川全景

### 今後の展望を教えてください

まずは大阪市内でいくつか自社運営の「みんなのうえん」を増やしていきたいです。市内には空き地や空き家が増えていて、駐車場にするにも難しく古い家が隣接しているような場所で展開できればと思っています。具体的には、現在東住吉区で行政と連携しながら事業の可能性を模索してい連携しながら事業の可能性を模索しています。今後の展望としては今北加賀屋と寝屋川の2ヶ所でやっていますが、次の3ヶ所目の時点でスタッフを増やしつつ、さらに自社の農園を10ヶ所ぐらいまで増やしていきたい。ただ自社運営にこだわっているわけではないので、フランチャイズ展開など



子供たちと土耕し

も考えています。もう一つリアリティがあると思っているのは、クリエーターなどの時間の自由が 利く職業の方が本業をしながら副業として農園の管理をやるというようなかたちです。ストレスの たまるデスクワークの後に開放的な農作業をすることで人生のバランスを取ることができます。

そういう展開のためにも、まずは「みんなのうえん」の集客力を高めていきたいです。都市部においては需要はあると思うので、これから大家さんが高齢化していって、相続の問題が出てきたりとか、古い建物を壊さないといけないといった問題がたくさん出てくるので、そのチャンスをうまくつかみたいと思っています。

■このレターは、「みんなのうえん」などについて一般社団法人グッドラック代表理事の金田康孝さんにインタビューさせていただいて作成しました。

発行元・問合せ先 公益財団法人都市活力研究所

〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7F TEL 06-6359-1322/FAX 06-6359-1329